

校長ニューズレター(第32号・7月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



奇跡の体育

先月、1年から6年までの全学級で「とびばこ」の授業をおこないました。各担任と西江先生（共同研究者）と校長で取り組みました。

この授業を受けた5年生のYさんの感想を紹介しましょう。

きせきの体育

今日、六校時に西江先生と校長先生との体育の授業がありました。

私は、ポイントを4こ見つけました。

一つ目は、最初と最後に息をすうという事です。最初ですうとリラックスできて、最後は、このきんちょう感からぬけだせる一つ目のポイントです。

二つ目のポイントは、息をすったら、体を上からたおしていくように、走るということです。

三つ目のポイントは、ふみ台の所のジャンプは、ひざをまげてというヒントでした。

四つ目のポイントは手を広くあけて、強くおしきるというポイントです。

スポーツや勉強もコツをつかめばかんたんなのです。

授業の展開はこうでした。

- ① 準備運動
- ② 開脚飛びのできる子ども数人に飛ばせてみる（ここで子どもの飛び方を一部始終、診ておく）
- ③ スタートの指導。とびばこに正対する位置に足をそろえて立つ。息を吐き大きく息をすわせて、また息を吐く（このときにどのように飛ぶのかのイメージをつくる）。両足のかかとをあげて倒れ込むような感じで前傾姿勢になりスタートする。
- ④ ③ができれば、（飛び終えた後に）マットの前方はじまで移動し、そこで再び深呼吸をして静かに歩いて待機席まで帰る。

さて、数名の飛べない子どもたちがいた。西江先生は、その子たちにとびばこに手をつかせた。ほとんどの子どもが、指同士をくっつけたままにとびばこに手を置いている。そこで、指をしっかりと開かせとびばこをつかむようにとアドバイス。そうしないと、自分の体を前方に押し出せないし、また危険なのでもある。

それから手をとびばこにつけたまま、飛び板の上で足を揃えてジャンプをさせた。ジャンプは膝を柔らかくつかって何度もさせていた。ここまでできれば、踏切はほぼOKである。

上記のことをYさんは、コツと言っている。これまで4段のとびばこを飛べなかったYさんは、これらのコツを教わって、見事に飛んだのである。本人もびっくりしていたようである。その感動を、「きせきの体育」という題名で感想を書いてくれたのです。

子どもの可能性を開きのばすことが、教師の仕事です。とくに体育や音楽の授業では、教師の力量がいち早く目に見える形であらわれます。今まで飛べなかったとびばこが1時間の授業で飛べたり、歌の練習でなかなか大きな声の出せなかった子どもが、よく響き渡る歌声を出せるようになったりします。

今回のとびばこの授業の目的は、子どもたちが自分の身体（からだ）を自由にあやつれるようにすること。それと安全な飛び方指導でした。自分の身体を自在にあやつって飛べるようになり、そのことが自信につながった子どもたちが何人もいました。

国語や算数の授業も、体育の授業と同じように教師の的確な発問や説明や指示（Yさんの言葉ではコツ）が必要です。教師の適切な指示等で子どもたちの可能性が開かれていくのです。5年生のYさんはそこまで指摘しているように思われます。奇跡の国語、奇跡の算数というような授業も実現したいものです。